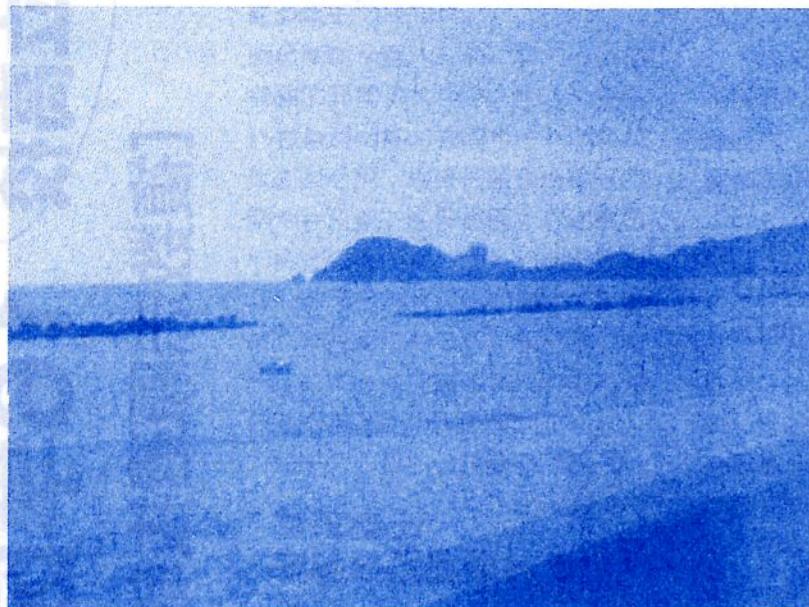


美浜原発へ視察に行ってきました

事故が起きればどうするのかの説明なし



関西電力美浜原発へ、阪神北地域の日本共産党議員10名で視察に行ってきました。

関電・美浜原発PR館で元原発所長という方から説明を受けたのですが、さすがに絶対大丈夫との言葉は無かったものの、東電施設との違い、事故後の安全対策の強化を言っておられましたが、過酷事故が起きたらどのように対応するのかの説明がまったく無く、やっぱりまだ安全神話の中にいる感じました。

国土交通省への要望活動に参加

大阪国際空港周辺都市対策協議会による

安全対策の強化とともに、周辺環境対策の維持を

協議会（旧・11市協）がその年度の方針を確定する中で、それにそつて国土交通大臣へ要望を訴えている活動に、川西市議会議長（副会長職）の代理で参加させていただきました。

運動方針はこの間お伝えしているように、平成2年の「存続協定」を基本として、安全・環境対策に万全を期すことを最優先課題として提起、合わせてその上での活性化を求めています。

特に近年、小さなトラブルが目立つて起きており、航空機の事故は起こしてはならない、そのためには国が万全の対策をとるべきだと要求しています。

大阪空港と関西空港が統合し、民間会社へ

来年七月に統合することがすでに確定しています。その二年後には完全民営化となります。

合併すれば、さまざまな事柄は新しい会社が決定するとの立場を示しています。

しかしこれまで周辺環境整備対策に、「財団法人・空港環境整備協会」が資金を出していた事業は、新

会社の赤字補填に回され、周辺住民へは回ってこない恐れが出てきました。特に川西の住民にとっては安全が脅かされ、騒音に悩まされている毎日を過ごしております。それでも空港の存続を容認しているという苦渋の選択をしてきています。その人々への支援策がなくなってしまうことがあります。それは「存続協定」に反することになるのです。

国が責任持つて新しい会社にこれまでの支援を継続すべく指導の強化を要求。この要求のくだりを私がさせていただきました。短時

間だけでしたが、久しぶりの国に対する要望活動でした。



よし
くらしの
「由さん」の 便り

2011年 8月 276号

川西市議会議員（日本共産党）

住田由之輔 すみだよしのすけ

連絡・下加茂 1-24-23

090-9283-6739

公立高校 16学区を「全県5学区」へ！

[複数志願選抜制度の全県導入] の素案を発表！！

宝塚、伊丹・川西・猪名川、西宮、尼崎、三田・篠山・丹波が
1学区に！！

6月30日、県教育委員会の「県高等学校通学区域検討委員会」は、現在16ある兵庫県内の学区を5学区へ、複数志願制度を全県に導入する「素案」を発表しました。現在、宝塚市内4校で1学区ですが、宝塚、伊丹・川西・猪名川、西宮、尼崎、三田・篠山・丹波の8市1町・29校の広大な学区となります。

非公開・密室で審議

この「検討委員会」は、県民に非公開で審議されており、「将来は全県1学区が理想的」「今回の見直しでは段階を踏む」ということで5学区案」などの発言も。

7月にパブリックコメントは実施されましたが、今年の10月には最終答申をし、今年度中に計画策定、2014年からの実施をめざしています。

宝塚の説明会でも異論噴出

県下7ヶ所での説明会に加えて宝塚市役所でも説明会が行われ、宝塚市PTA協議会などから約90名が参加をしました。参加者からは、学区の拡大は行き過ぎた競争と序列化をうむ、もっと全国の検証をすべき。通学時間や交通費の負担が心配、複数志願製を導入してわずか2年、検証も不十分なまま強行は許されない。もっと関係者の意見を聞くべき、など不安の声が続出しました。

明石市では市町・市議会議長、教育長の連名で反対の意見書を提出。但馬の3市2町の首長も要望

現行通学区域	新学区案
西宮 (6校)	
尼崎 (6校)	
伊丹 (7校)	
宝塚 (4校)	
丹有 (6校)	阪神・丹波学区に(29校)

自由学区	市町単位の双方向受験に拡大地理的理由により、中学校単位で学区外の受験を認めていた自由学区を市町単位の双方向受験に変更。 西宮市 ⇄ 神戸市北区 ⇄ 三田市・三木市 三木市 ⇄ 神戸市西区 ⇄ 明石市 ⇄ 淡路市
------	---

日本共産党県議団 白紙撤回を申し入れ

8月4日、日本共産党県議団は、県教育委員長、通学区検討委員会委員長、教育長に対し、白紙撤回を求める申し入れを行いました。「選択肢を増やす」ことよりも、希望するすべての生徒に、地域に根ざした十分な高校教育を補償する条件整備こそ必要です。